

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福知山市立成和中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	13	28
生徒数	114	111	123	11	359	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力を付けるための、個に応じた指導方法の研究と実践 ～実践的コミュニケーション能力の育成と評価の在り方～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・英語 これまでの英語科の少人数授業による個に応じた指導を更に継続し、実践していくため</p>
---

(2) 年次ごとの計画

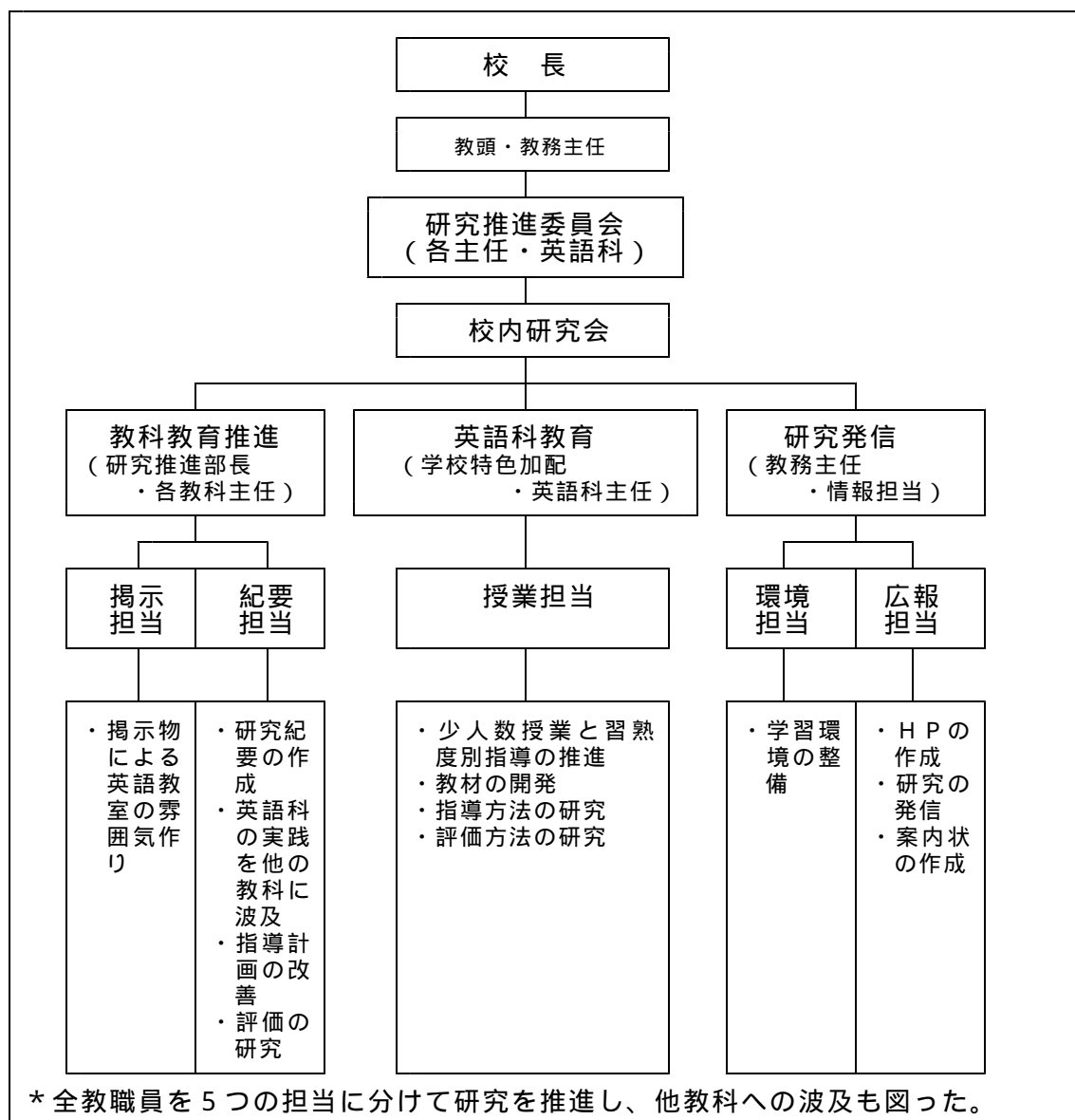
平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を付けるための、個に応じた指導方法の研究と実践 ～実践的コミュニケーション能力の育成と評価の在り方～</p> <p>仮説 ア 自己表現の場を設定し、人と関わり学び合う楽しい体験を重ねていけば、実践的コミュニケーション能力の基礎が養える。 イ 指導に生かす適切な評価を計画的にすることにより、学習意欲の向上が図れる。</p> <p>研究の内容・方法 ア 少人数授業や習熟の程度に応じた指導等、指導方法、指導体制の工夫改善を図る。 (ア) 学習集団編成の工夫 (イ) 授業展開の工夫 (ウ) 指導体制の工夫 イ 評価規準や評価方法等についての研究開発を行う。 (ア) 具体的な評価規準の作成 (イ) 評価計画の作成 (ウ) 評価方法の研究 (エ) 指導と評価の一体化を図るための評価の在り方 ウ 発展的な学習や補充的な学習を行うための教材・教具の開発を行う。 (ア) 習熟の程度に応じた授業のための教材作成 (イ) 宿題の工夫(発展用、補充用) エ 職員研修 (ア) 先進校視察の実施(奈良市立若草中学校、広島県御調町立御調中学校等) (イ) 指定校同士で研究の交流(京北町立周山中学校等)</p>
--------	---

<p>テーマ 確かな学力を付けるための、個に応じた指導方法の研究と実践 ～実践的コミュニケーション能力の育成と評価の在り方～</p>
--

平成15年度	<p>仮説</p> <p>ア 自己表現の場を設定し、人と関わり学び合う楽しい体験を重ねていけば、実践的コミュニケーション能力の基礎が養える。</p> <p>イ 指導に生かす適切な評価を計画的にすることにより、学習意欲の向上が図れる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 生徒の学力の実態把握  (ア) 学力実態調査を実施して結果を分析し、指導に生かす。  (イ) 生徒への調査を行い、指導方法の改善に生かす。</p> <p>イ 平成14年度の成果と課題を生かして、少人数授業や習熟の程度に応じた指導等、指導方法、指導体制の工夫改善を図る。  (ア) 学習集団編成の工夫  (イ) 授業展開の工夫  (ウ) 指導体制の工夫</p> <p>ウ 平成14年度の成果と課題を生かして、評価規準や評価方法等についての研究開発を行う。  (ア) 評価規準の見直し  (イ) 評価計画の見直し  (ウ) 評価方法の研究  (エ) 指導と評価の一体化を図るための評価の在り方</p> <p>エ 平成14年度の成果と課題を生かして、発展的な学習や補充的な学習を行うための教材・教具の開発を行う。  (ア) 習熟の程度に応じた授業のための教材作成  (イ) 宿題の工夫(発展用、補充用)</p> <p>オ 職員研修  (ア) 先進校視察の実施(京都教育大学附属中学校)  (イ) 講師を招聘しての研修会実施(松香フォニックス)  (ウ) 指定校同士で研究の交流(京北町立周山中学校等)</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力を付けるための、個に応じた指導方法の研究と実践  ～実践的コミュニケーション能力の育成と評価の在り方～</p> <p>仮説</p> <p>ア 自己表現の場を設定し、人と関わり学び合う楽しい体験を重ねていけば、実践的コミュニケーション能力の基礎が養える。</p> <p>イ 指導に生かす適切な評価を計画的にすることにより、学習意欲の向上が図れる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 生徒の学力の実態把握  (ア) 学力実態調査を実施して結果を分析し、指導に生かす。  (イ) 生徒への調査を行い、指導方法の改善に生かす。</p> <p>イ 平成15年度の成果と課題を生かして、少人数授業や習熟の程度に応じた指導等、指導方法、指導体制の工夫改善を図る。  (ア) 学習集団編成の工夫  (イ) 授業展開の工夫  (ウ) 指導体制の工夫</p> <p>ウ 平成15年度の成果と課題を生かして、評価規準や評価方法等についての研究開発を行う。  (ア) 評価規準の見直し  (イ) 評価計画の見直し  (ウ) 評価方法の研究  (エ) 指導と評価の一体化を図るための評価の在り方</p> <p>エ 平成15年度の成果と課題を生かして、発展的な学習や補充的な学習を行うための教材・教具の開発を行う。  (ア) 習熟の程度に応じた授業のための教材作成  (イ) 宿題の工夫(発展用、補充用)</p> <p>オ 職員研修  (ア) 先進校視察の実施  (イ) 指定校同士で研究の交流</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ア 生徒の変容
- (ア) 学習意欲の持続と向上
- 指導方法の工夫、教材教具の開発、評価の工夫などのさまざまな手立てにより、生徒の学習意欲は全学年持続している。「英語が好き、どちらかというところ好き」という生徒が、平成13年度は56%、平成14年度は60%、平成15年度は68%と年々高くなっている。「どちらでもない」という生徒を合わせると、86%の生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいる。
  - 英語を得意と感じ、授業をリードする生徒、卒業後も発展的に英語学習を続けたいという生徒が増えてきた。それらの生徒たちの意識は高く、英語を楽しく学ぶとともに授業をリードすることで全体の雰囲気はよくなっている。
  - 学習集団をそのねらいに応じて柔軟に編成し、授業内では、ペア学習や「ベストパートナー」、「グループ学習」を多用してきたので、人と関わり合いながら楽しく学習できる雰囲気がある。
  - 学習集団が柔軟に変わることについての生徒の反応はよく、楽しみに待

つ生徒が多い。「わくわくイングリッシュ」で、自分でコースを選べることを特に楽しみにし、意欲的に学習に取り組んでいる。

e 人前で自信を持って英語を話す態度を育てるための「小先生活動」や「音読テスト」などで自分の力を試す場面があるので、自己理解が進み、次の頑張りにつながる生徒が多い。

- (イ) 基礎的・基本的事項の定着
- a 基礎的・基本的なことを徹底させたことにより、基本的なことが身に付いており、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度がある。
- b 音声重視の授業により、音読が好きな生徒が多く、毎時間の音読の繰り返しで、ほぼ全員の生徒が教科書を流暢に読むことができる。
- c 毎時間の宿題の積み重ねで、多くの生徒の単語力が向上した。相当量(両面刷り)の宿題を当たり前のこととして3年間毎時間続ける。機械的な繰り返し後、ビンゴゲームで楽しませたり、単語テストで高得点を取れることを実感させたりして、宿題の大切さを認識させている。
- d 全校的に行う年3回の単語テスト(日英、英日の50点満点で、その時学習している単元から出題するテスト)において、8割以上正答する生徒が、1回目は91%、第2回目は90%あり、高い合格率を示している。

d 習熟の程度に応じた「基礎コース」の指導により、基礎・基本が身に付いている。

- (ウ) 発展的な学習への取組
- a 授業内で、個に応じた発表や言語活動をさせることにより、生き生きと喜んで、発展的な内容で発表する生徒が多くなった。
- b 習熟の程度に応じた「発展コース」の指導により、理解度の高い生徒たちが同じ教室で発展的な内容の学習に積極的に取り組んでいる。

(エ) 個に応じたきめ細かな指導による、実践的コミュニケーション能力の向上

a 習熟の程度に応じて学習集団を柔軟に編成することにより、より一層個に応じたきめ細かな指導ができ、実践的コミュニケーションの基礎が身に付きつつある。

b 指導方法の工夫、教材教具の開発、評価の工夫により、個に応じた指導の充実が図られ、学力が向上している。

- (オ) その他
- a 英語学習に関する物を常時教室に掲示することにより、生徒の意識が英語学習に集中している。休み時間に掲示物を興味深く見る生徒がいたり、授業時間内に有効な表現を活用する生徒がいたりする。また、英語学習への切替という点で英語特別教室は効果的であり、アンケートの中で、「英語教室に行くのが引き締まり、集中できる。」と書く生徒も多い。

b 授業外でも英語を使う場面が増え、AETに廊下等で気軽に英語で話しかける生徒が増えた。また、生徒による昼放送の「AETタイム」や、いつでも生徒から手紙が送れる「AET's メールボックス」により、AETとのコミュニケーションが増えている。

(カ) 英語アンケート内容

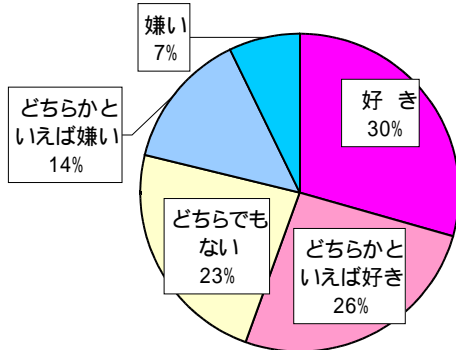
少人数授業のよい点について

・ 集中して学習ができ、意欲的に頑張れる。	84%
・ ビンゴのような教材の工夫が楽しい。	70%
・ 「シール発表」のような発表の機会が増える。	60%
・ 分からないところがすぐ聞ける。	46%
・ その他 打ち解けやすい温かい雰囲気がある。 先生が変わるのが新鮮でよい。 挙手しやすいし、よく当ててもらえる。 教室が英語特別教室なので、気持ちが引き締まる。	

「英語は好きですか」「少人数は分かりやすいですか」「少人数に満足して  
いますか」

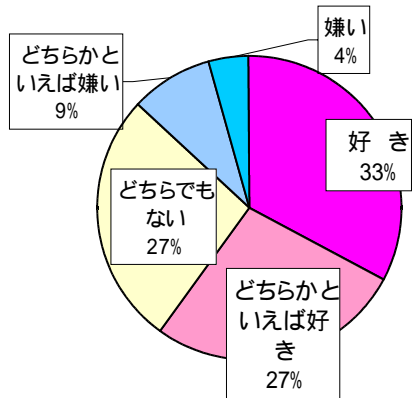
平成13年度

英語が好きですか

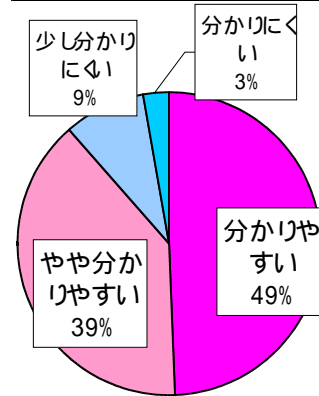


平成14年度

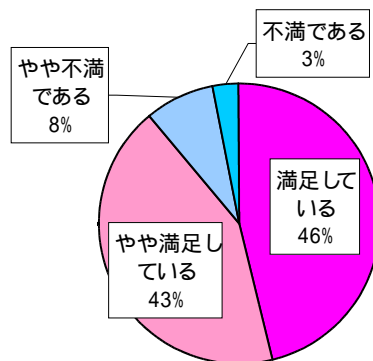
英語が好きですか



少人数は分かりやすいですか

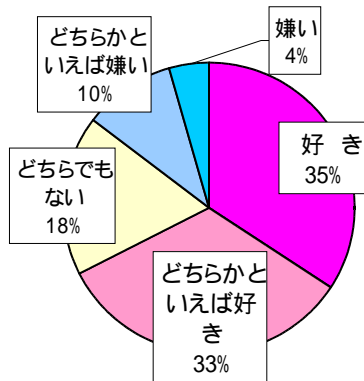


少人数に満足していますか

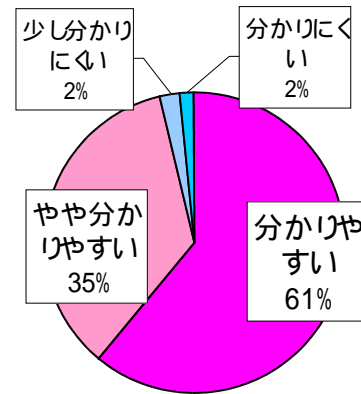


平成15年度

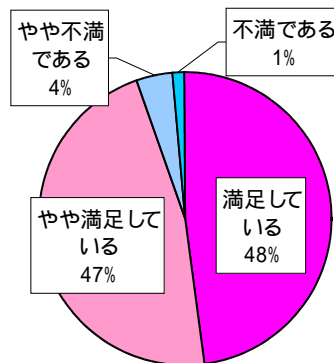
英語が好きですか



少人数は分かりやすいですか



少人数に満足していますか



#### イ 教師の変容

- (ア) 指導方法と評価の仕方の確立  
成和中学校英語科としての、具体的な指導方法や評価についての「成和スタイル」が確立した。
- (イ) 指導力の向上を目指した研修  
教員は授業の雰囲気を作る「環境」の一部であるので、生徒の反応、自分の授業ビデオ、研修会などから、「自分のよさと課題」をよく知り、指導力の向上に努めるようになった。
- (ウ) 英語科指導体制の確立  
全校の生徒の変容を見る視点を持ち、さまざまなことをオープンにして共通理解を図り、共に課題克服に努めるようになった。
- (エ) 指導方法の工夫改善  
生徒が「話したい、伝えたい」と思うような題材の設定と、会話の連続性を大切にして授業を展開できてきた。
- (オ) 校内体制の確立  
校内の研究組織が機能しており、多方面から研究を支え、全校体制で英語教育に取り組めるようになった。

## 2. 今後の課題

- ア 更なる指導方法の改善や評価方法の工夫を行う。
- イ 小学校や高等学校との連携を深める。

## 学力把握のための学校としての取組

「学力診断調査」  
中学1年生に入学時、国語・算数における生徒一人一人の学習状況を把握し、中学校での指導に生かす。

「中学校学力診断テスト」  
中学校2年生の11月に、府の中学校学力診断テスト（国語、数学、英語）を実施・結果分析し、生徒個々の学力状況を把握するとともに、学校としての課題を把握し、指導方法の改善に生かす。

「学力実態調査」  
中学校3年生の11月に、福天地域の学力実態調査（国語、数学、英語、理科、社会）を実施し、結果を分析して、生徒一人一人の学力の状況を把握するとともに、指導に生かす。

「復習テスト」  
中学校3年生において5教科のテストを年間4回実施し、これまでの学習状況を把握し、今後の指導に生かす。

定期テスト  
年間5回、全学年において実施し、補充指導等を行う。

「英語アンケート」  
全学年に英語の授業についてのアンケートを実施し、学習意欲の把握を行い、指導に生かす。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 研究発表会

日時 平成15年10月17日(金)

場所 福知山市立成和中学校

対象 京都府内中学校及び中丹管内小学校・高等学校、府内AET、全国中学校

目的 フロンティアスクールとしての研究実践の成果の普及

### 具体的取組

- ・ 受付は生徒会本部役員が英語で行った。
- ・ 授業前後の校内放送は、委員会の生徒が英語と日本語の両方で行った。
- ・ 研究授業は英語で議論する単元を発表し、生徒が自分の考えを英語で言い合う授業展開とした。
- ・ 体育館での全体会では、選択授業で英語を履修している生徒による「イングリッシュタイム」を行った。内容は、英語の歌、参観者への英語での福知山紹介、スピーチ発表などである。

### 参加者

- ・ 京都府内85人、京都府外23人、他行政関係者、AET等も含めて123人の参加者があり、「生徒の英語会話力とその学習意欲の高さに非常に驚いて感心した。」との感想が多かった。

### 研究成果普及のためのHP、パンフレット等の実績

HP <http://www1.kyoto-be.jp/seiwa-jhs/>

研究紀要、指導案の作成

### フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

- 5月19日 「指導・支援チーム」への公開授業と事後研究会(地元新聞に掲載)
  - 5月26日 中丹地区学力向上推進協議会にて研究推進についての発表
  - 5月28日 修学旅行でJICA(国際協力事業団)へ研修員との交流を目的とした訪問
  - 6月2日 京都府教育委員会主催「指導方法の工夫改善に関する協議会」の英語部会での実践発表
  - 6月25日 福知山高等学校、京都市立寺戸中学校、城陽中学校への公開授業と事後研究会
  - 6月26日 中丹地区学力向上推進協議会にて実践発表
  - 6月29日 英語科研修会(講師:松香フォニックス)開催  
中丹地区PTA研修会での生徒の英語活動の発表
  - 8月5日 京都府総合教育センター研修「高校外国語英語教育講座」での講師
  - 10月3日 「指導・支援チーム」への公開授業と事後研
  - 10月17日 研究発表会での公開授業と研究発表(地元新聞に掲載)  
京都府内、静岡県、山口県、長崎県、富山県、鳥取県、佐賀県、兵庫県、愛知県、福井県から123名の参加
  - 11月20日 「福天スピーチコンテスト」へ生徒の参加(最優秀賞受賞)
  - 12月2日 長崎県島原市中学校長会の視察(5名)
  - 12月3日 京都府教委育委員会主催「指導方法改善協議会」での実践発表
  - 1月21日 京都教育大大学院生、京都教育大コロンビアからの留学生、北宇治中学校、寺戸中への公開授業と事後研究会
  - 2月4日 「京都府学力充実推進協議会」での実践発表
  - 2月13日 京都市立伏見中学校、栃木県足利市立毛野中学校、静岡県函南町立東中学校、広島県福山市立駅家南中学校への公開授業と事後研究会
- \* その他 授業のビデオレンタルや研究紀要の送付等に応じている。  
\* 保護者への授業公開も実施している。

研究成果の普及活動の成果(他校への反響等)など  
(別添) 研究発表会の感想



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下             4～6学級  
                           7～9学級             10～12学級  
                           13～15学級         16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導             T・Tによる指導  
                           その他
- 【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                           外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                           保健体育      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有     無